

無形資産の設計図

ダイキン工業に学ぶ「稼ぐ知財」へのパラダイムシフト

関西 知財・無形資産ガバナンス・フォーラム 2026 講演予測レポート

圧倒的な「稼ぐ力」を支える知財の裏付け

売上高

5兆円超

(2026年3月期連結決算 / 過去最高業績)

特許価値成長力

第2位

(特許価値成長力ランキング2025 全産業中)

海外売上高比率

84%

(グローバル170カ国以上展開)



Event

関西 知財・無形資産ガバナンス・
フォーラム

(2026.9.4 @大阪工業大学梅田キャンパス)

Key Speaker

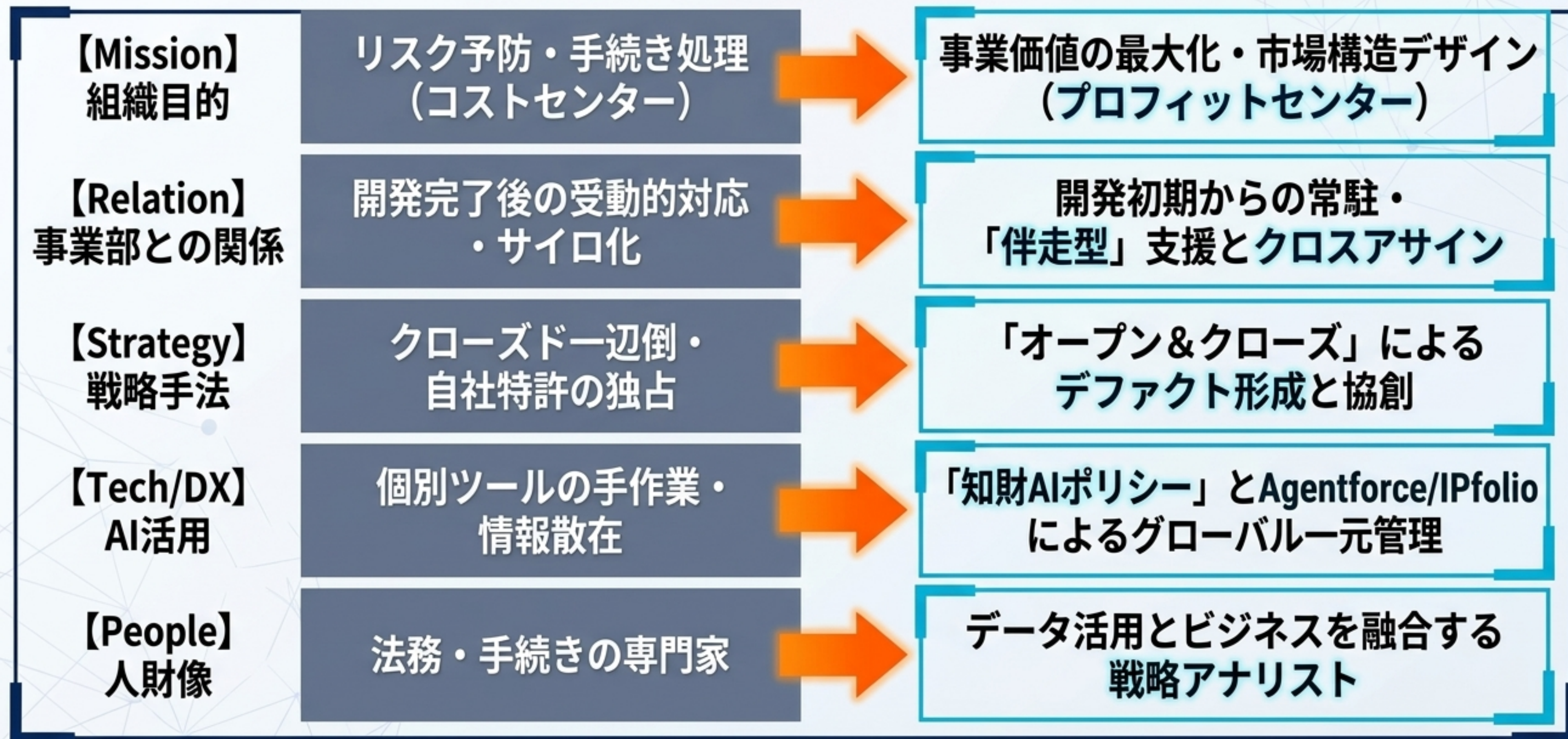
安部 剛夫 氏

(ダイキン工業株式会社 知的財産部長)

Core Theme

経営に活かす知財の在り方と、
クリエイティブな知財部運営へ
の挑戦。

コストセンターから「価値創出の源泉」へのシフト



クリエイティブ知財を駆動する4つのエンジン



1.【組織】

サイロを破壊する
「伴走型」知財組織



2.【戦略】

市場をデザインする
「オープン&クローズ」



4.【人財】

「人を基軸」とした
プロフェッショナルの進化



3.【DX】

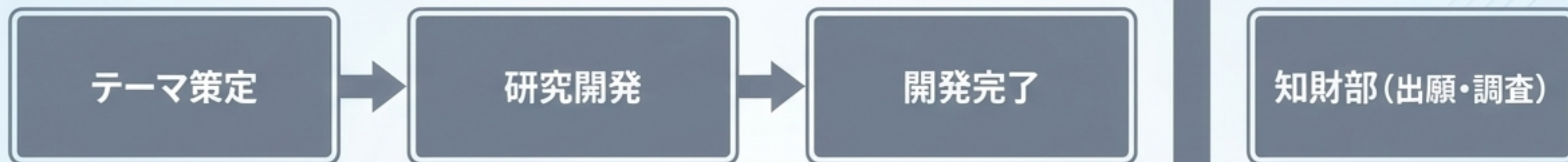
AIによる知財
インテリジェンスの民主化

事業価値の創出

(FUSION25経営戦略との完全連動)

Pillar 1 - 「伴走型」知財組織への構造改革

従来型プロセス



ダイキンTIC体制



Pillar 2 - 市場を支配する「オープン&クローズ」の二次元アプローチ

Outer Circle (Open / 仲間作り)

【施策】新冷媒「R32」関連特許
400件超の全世界無償開放。

【目的】デファクトスタンダード
(事実上の標準)の形成。
新興国メーカーの参入を促し、
市場全体を急速に拡大。

Inner Core (Closed / 収益独占)

拡大した市場において、
圧倒的な製品差性差別化

【施策】インバータ制御技術、
コンプレッサー構造、
高度な製造プロ
セスの徹底秘匿・権利保護。

【目的】
拡大した市場において、
圧倒的な製品差別化と高収
益性を担保。



Pillar 3 - AIとDXによる知財インテリジェンスの民主化

Input

世界130以上の生産・R&D拠点
(多言語データ・情報の散在)



グローバル管理基盤
IPfolio

生成AI Agentforce
(翻訳・統合・分析エンジン)

ルーチン業務の完全AI化
→ 知財人材のリソース解放



技術部門・経営層への
戦略的フィードバック

知財AIポリシー:スクリーニング等の定型業務をAIに完全委譲
グローバル連携:英語圏以外の開発拠点(タイ等)の言語の壁を消失

Pillar 4 - 「人を基軸におく経営」が生むプロフェッショナルの進化

アクセラレーター: DICT
(ダイキン情報技術大学)

Top Level: 戦略的介入

事業解釈能力・戦略アナリスト
「現地現物」に基づくグローバルコミュニケーション

Middle Level: インテリジェンス

データサイエンス・AIツール駆使
(DICTでの徹底的なIT・AI教育)

Base Level: 基礎知見

特許法務知識
(定型調査や手続きはAIへ移行)

AIツールを導入するだけでなく、
それを「価値に変換する人間」の育成に
最大の戦略的投資を行っている。

Synthesis - 知財戦略と長期経営ビジョン「FUSION25」の完全同期

The IP Engine

1. 伴走型組織

2. オープン&クローズ

3. AI・DX基盤

4. 人財の進化

FUSION25 Core Themes

1. カーボンニュートラルへの挑戦
(R32開放エコシステムの応用)

2. 顧客とつながるソリューション事業
(空気質ソリューション特許)

3. 空気価値の創造
(サブスクリプション型ソフトウェアIP)

単なる技術保護ではなく、
経営計画のレバーとして機能する無形資産ガバナンス

日本の経営層へ：知財ドリブン経営への3つのアクション



□ 経営と知財の 言語を同期する

自社の知財が将来のキャッシュフローにどう繋がるか、投資家や社外取締役に対して定量的に説明できるか？



□ AI時代の「職責」を 再定義する

ルーチン業務をAIに委譲し、知財部門の余力を「伴走・新規事業創造」というクリエイティブ業務へ再配分しているか？



□ 協創エコシステムを デザインする

自前主義の限界を悟り、産学官連携や「オープン化」を通じて市場を自社優位に拡大できているか？

関西発の知財ガバナンス実践モデルを、日本産業全体の再生の原動力へ。